

令和8年度（2026年度）第1回東海市健康づくり推進会議 会議録

○開催日時 令和8年（2026年）7月30日（木）

午後2時から3時30分まで

○開催場所 しあわせ村健康ふれあい交流館 多目的ホール（1階）

○出席者氏名

委 員：塚本純子（会長）

尾関拓也、高橋智子、高木眞子、小嶋健太郎、井上貴詞、宝達真志、西川壽、
山下妃呂巳、坂野郁夫、松木秀一、福崎和生、村井亮太、橋本寛也、綾部敬子、
中山留美子、大谷美里、加藤浩

事務局：健康推進課長 柘植由美、同主幹 長坂友子、

同主任指導保健師 大串文子、

同統括主任 天野愛作、市川遼、同指導保健師 佐治かな絵

同主任保健師 福本可奈、同主任 百松遙、同主任栄養士 中村利江、

同主任歯科衛生士 尾崎麻衣子

○欠席者氏名 樫丈一郎、橋本圭史、久保龍太郎、富山直輝、平松好美

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の数 0人

○議題及び審議の概要

1 開会

2 委員自己紹介

3 会長及び職務代理者の選出

4 議題

(1) 第3次東海市健康増進計画の年度評価について

ア 評価シート

イ 意見共有

（事務局説明）

基本目標である「健康寿命の延伸」の健康寿命の現状値について、男性の健康
寿命は、基準値となる令和5年には80.07歳、令和7年には80.87歳と

0. 8歳伸びていた。

女性については、令和5年には84.38歳、令和7年には84.88歳と

0.5歳伸びていた。

(意見交換)

3グループに分かれて事務局から資料に基づき①施策の目指す姿②指標と評価③令和7年度の主な取り組みについて説明をし、第3次計画の年度評価及び意見について話し合いを行った後、その内容を発表、意見交換を行った。

Aグループ【資料1-1、1-2、1-3】

施策1-1「定期的に健康状態を振り返ることができる人を増やす」について

- 個別で、がん検診を受診してもらう体制では受診率の低下を招くのではない。例えば、胃がん・肺がん・大腸がんをセットで受けられるような仕組み作りをしたらどうか。
- 子宮頸がん・乳がんもセットで受診可能な医療機関を増やすとともに、希望者ではなく強制的に受けてもらえるような仕組みづくりが必要と考えられる。

施策1-2「健康的な生活習慣に取り組む人を増やす」について

- 中学生で、すでに飲酒・喫煙をしているケースが増えており、飲酒・喫煙については低年齢化が進んでいるのではない。
- 大人の場合は辞めたくても辞められない場合が多いが、子どもの場合はよくわからないまま飲酒・喫煙をしてしまっているケースがあるため、コロナ禍前に行っていたような学校での健康教育の充実を図った方が良いと思われる。
- 低年齢の方が飲酒・喫煙に関する知識・関心が薄いため、若いころからアプローチをすることで、将来的に飲酒・喫煙をする方を減らすことが出来るのではない。

施策1-3「口の健康を大切にしている人を増やす」について

- むし歯の罹患については、フッ化物による影響が大きく、予防可能であることは世界的にも言われている。

●40歳以上の歯周病のある人の割合について、全国平均程度なのに急激に増加して見える。過年度において歯科医師会の検診方法に問題がなかったか、調査・検証、場合によっては研修が必要と考える。

●お口のフレイルが体全体のフレイルを招くと言われているため、口腔機能の維持が大切である。

●口の機能が低下している若い方・高齢者が増えてきており、0歳児など若いうちからの検診を実施していくことが今後必要だと考える。

Bグループ【資料2-1、2-2、5-1】

施策2-1「適量やバランスの良い食生活を送っている人を増やす」について

- 周知啓発から体験型に移行し、若い世代へのアプローチが今後は必要である。
- 家での食事よりも外で調達してくるような人が増えてきたのではないか。
- 学校における食育活動で子供から保護者へのアプローチを行っていくことも重要である。

施策2-2「食の大切さへの理解を深め、心豊かな食生活を送っている人を増やす」について

- 子供は学校生活の中で給食を楽しみにしているため、給食を軸に食育に力を入れ、食生活の改善を図っていくと良いのではないか。
- 食生活改善協議会の最近の状況としては人手不足であるため、今の会員の質を高めていくことを今後取り組んでいきたい。
- 心豊かな食生活を送るためには、家族との団欒や誰かと一緒に食事をする機会を設けることが重要であるが、昨今、そういった機会が減ってきているため、改善していく必要がある。

施策5-1「誰もがすこやかに生活できる環境をつくる」について

- 指標としては改善にあるため、今後も引き続き取り組んでいく。
- 特に企業での取り組みは非常に円滑であるが、市主催のウォーキングイベントの参加者が減っていることや、ウォーキング主催団体においてもスタッフを

休日に従事させることへの理解が得られにくいなどの課題解決を考えていく必要がある。

●健康づくりのために導入しているスマートフォンアプリについて、高齢者にとってはスマートフォンの取り扱いが難しい方も多いため、そういった方々が利用できるようになると活用率が上がるのではないかな。

●今後は小規模事業所にも積極的な声掛けを行い、より取り組みを広げていくことも重要である。

Cグループ【資料3-1、3-2、4-1】

施策3-1「自分に合った身体活動をしている人を増やす」について

●市が体を動かす機会の提供としてみんなでウォーキングを開催しており、広報、公共施設、市公式LINE等で周知を図っているものの、まだ知らない人も多く、周知が課題と考える。

●スポーツがしやすい環境が整っていると感じている人の割合については、みんなでウォーキングにおける中学生以下の参加者を増やすための取り組みが若い時からスポーツをするような仕掛けづくりとして功を奏しているのではないかな。

施策3-2「心と体の休養の大切さを理解している人を増やす」について

●個人個人に対してたくさん寝ましょう、と推奨するのには限界があるが、社会的にもスマートフォンや会員制ストリーミングサービスの普及によって環境的に睡眠がとりにくくなっているのではないかな。

●特に30代、50代といった現役世代においては、自分のやりたいことや趣味等を優先して睡眠時間を削っているのではないかな。

●睡眠時間の不足が健康を害するという意識・関心が低いため、今後はそういった意識付けが必要である。

施策4-1「人と人とのふれあいを大切に、心地よくつながる環境をつくる」について

- 一人ではグループ活動に参加しにくいと感じる方が多く、また、交通手段がなく、行きたくても行けない方が地域活動等に参加できていないこともある。
- 現在活動している団体においても、参加者・会員不足に悩まれている。団体に所属すると参加に対する義務感や、役員を任される等責任が生じるのではないかと、といったプレッシャーが要因の一つとしてあると思われる。
- 地域活動や市民活動に参加することは心身の健康に対する影響が大きいいため、引き続き積極的な周知を行い、参加者・会員の増加につながるよう努めていくことが必要。

(質疑)

尾関委員より

基本施策3（活動・休養）施策1「自分に合った身体活動をしている人を増やす」の指標に「メタボリックシンドローム該当者の割合」とあるが、基本施策2の食生活ではなく基本施策3にしている意図は何か。

(回答) メタボリックシンドロームの改善をしていく中で、体を動かすといった活動的な部分に着目し、基本施策3に入れていると思われるが、一度、策定時の経緯を確認し、後日正確な回答をさせていただくこととした。

5 その他

(1) トマト de 健康フェスティバル事業について

8月31日まで開催しておりますので、気になるお店に足を運んでいただければと思います。

(2) 今後の会議の予定

第2回 令和8年（2026年）10月29日(木)

第3回：令和9年（2027年）2月25日(木)

6 閉会